

第3章 八代海域における課題

3.1 八代海北部海域における課題

(※「八代海北部沿岸都市」地域連携創造会議資料の一部抜粋)

■安全・防災に関する問題点・課題

●1. 高潮・高波被災の不安

地域の安全な生活や生産環境の保全と今後の八代海の多様な利用の前提として、高潮・高波の不安の解消は不可欠の条件です。

●2. 八代海北部干潟地帯における堆積泥の処理

干潟を形成する八代海の湾奥地帯では、陸地よりも干潟泥が高く堆積しているところも多く、背後地の洪水の不安など大きな問題となっています。

■自然・生態系保全に関する問題点・課題

●1. 優れた自然環境保全装置としての八代海本来の役割とその機能低下

広大な干潟を持つ八代海は、魚介類の生産の場としての役割は言うまでもなく、優れた浄化機能を持っていますが、近年、干潟の海が持っているこのような環境維持能力に危機的な打撃を与えかねない過大で継続的な環境負荷が懸念されています。

●2. 八代海漁業の“子宮”としての重要性和海域汚染の進展

八代海北部沿岸海域は八代海全域に生息する魚介類の産卵発生と育成の場としての重要な役割を持っていますが、近年様々な要因による海域汚染が進んでいます。

■利用・開発に関する問題点・課題

●1. 八代海北部沿岸都市地域の圏域イメージの希薄さ

八代海北部沿岸都市を構成する市町は、地形的に八代海北部湾奥を囲むかたちで形成されているという事実を除けば、一体的な生活圏・交流圏としての統一イメージは希薄です。

●2. 地域（生活圏）構成と八代海北部沿岸都市圏のズレ

八代海北部沿岸都市を構成する市町は、生活圏域区分によれば、①宇城地域、②天草地域、③八代地域に明確に区分されており、八代海北部沿岸都市地域と現実の生活圏の間にズレがあります。

●3. 熊本都市圏の影響に比べてハード・ソフト両面で弱い八代都市圏の影響

熊本都市圏に比べて、当地域の中核都市である八代市の都市集積や影響力が弱い状況にあります。

●4. 天草地域を除いて低い海洋観光レクリエーションポテンシャル

天草地域に含まれる市町以外の八代海北部沿岸の干潟海域に属する市町では、歴史的に干潟観光の実績がなかったこともあり、海を基軸とした観光レクリエーションの蓄積が小さいのが実情です。

●5. 八代海北部東海岸における海への接点・アクセスの弱さ

八代海北部沿岸干潟海域、特に東海岸では度重なる干拓の歴史の影響で、背後の生活の場と海が離れていることと沿岸道路体系整備が低い水準にあること等を要因に、一般市民が海と接し、ふれあう機会や空間が少ない状況にあります。

3.2 八代海湾奥部における課題

(※「八代海湾奥部の対応方針」平成18年3月 熊本県より抜粋)

1. 海域環境の保全・改善

- ① 海域の水質・底質の保全・改善
 - ・ 海域の水質の悪化
 - ・ 底質が嫌気性の状態
- ② 希少野生動植物等や生態系の保全
 - ・ 376種の底生動物、鳥類、植物の生態系の保全
 - ・ 47種の希少種の生態系の保全
- ③ マングローブの生態系への影響配慮

2. 防 災

- ① 高潮災害等の懸念
 - ・ 台風時の高潮・波浪による越波や浸水の被害
 - ・ 不十分な防災情報および避難体制
- ② 洪水・湛水被害の懸念
 - ・ 標高0m地帯が広く分布し、洪水・湛水被害を受けやすい地形
 - ・ 閉鎖性海域による、大きな干満差および海面上昇量
 - ・ 不十分な防災情報および避難体制

3. 利活用

- ① 土砂堆積の進行
 - ・ 海域出入口が狭隘な地形であることによる、土砂流出効果の減少、土砂堆積の進行
 - ・ 干潟の沖合化に伴う、樋門の閉塞
- ② 漁場としての機能の低下
 - ・ 土砂堆積の進行による、漁場生産性の低下と漁業経営零細化
 - ・ 現状では、当海域において漁業対象種が減少し、漁場となる可能性は低い
- ③ 浚渫土砂の有効活用
 - ・ 濔筋の浚渫土砂の有効利活用の推進
- ④ 自然体験・環境教育・研究の場としての利活用

3.3 八代海湾奥部におけるあるべき姿と取り組み方向

(※「八代海湾奥部の対応方針」平成 18 年 3 月 熊本県より抜粋)

これからの八代海湾奥部は、人々はもとより海の生き物にとっても好ましいものであるべきであり、左記に示すような課題を踏まえると、八代海湾奥部のあるべき姿と取組みの方向としては、以下のとおり集約される。

あるべき姿

貴重な自然と生活が共存する地域

八代海湾奥部では、昭和 42 年に不知火干拓が完成し、その特殊な地形から土砂堆積の進行（干潟の上昇・沖合化）が宿命的なものとなっている。

この海域では、これまで干潟の進行に併せて各時代毎に干拓が行われてきた歴史があるが、現在では、このような干拓・埋立といった大規模な開発については、社会および経済情勢等から困難である。

現在、八代海湾奥部の干潟は、広大で稀少種を含む多様な野生動植物の生息・生育にとって重要な場となっているとともに、環境教育・研究の場や地域振興策での活用資源としても受け皿となる可能性を持っている。

一方、土砂堆積は、一部で背後農地の排水不良等の問題を引き起こしており、高潮災害も含めた被害防止に努めていく必要がある。

したがって、八代海湾奥部では、貴重な自然と生活が共存することを基本に、土砂の堆積状況を把握し将来を予測しながら、県民の八代海湾奥部への関心の醸成を図り、地元市町や住民、関係団体、企業と連携して、「海域環境の保全・改善と利用の推進」及び「高潮や洪水・湛水等に強い地域づくりの推進」を柱とした取組みを進める必要がある。

取り組みの方向

1 海域環境の保全・改善と利用の推進

海域の水質・底質環境の保全・改善をはじめ、多様な生態系の保全や堆積土砂の除去とその土砂の有効活用の検討、自然体験や環境教育・研究の場としての利活用を推進していく。

2 高潮や洪水・湛水等に強い地域づくりの推進

海岸保全施設の整備や機能維持をはじめ、河川改修の推進や排水施設の整備の検討、排水樋門前の堆積土砂の除去を行うとともに、行政と住民が一体となった防災関係のソフト事業を推進していく。